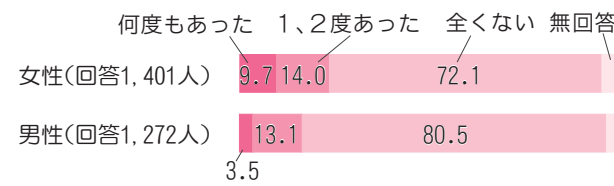
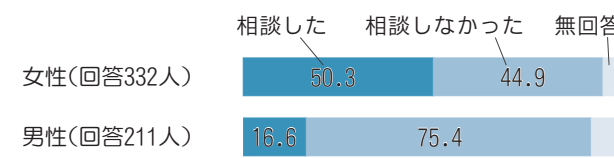


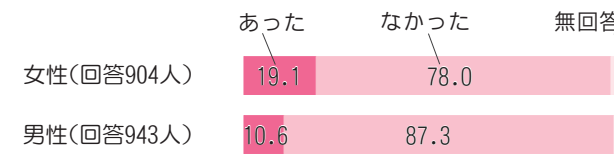
◆配偶者からのDV被害経験(単位%)



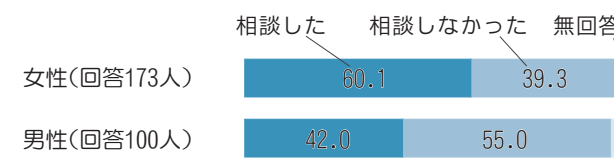
◆配偶者から被害を受けたことの相談の有無(単位%)



◆交際相手からのDV被害経験(単位%)



◆交際相手から被害を受けたことの相談の有無(単位%)



出典「男女間における暴力に関する調査報告書」(平成27年3月、内閣府男女共同参画局)

◆DV被害の現状
内閣府が実施した調査によると「配偶者から一度でも暴力を受けたことがある」と答えた割合は女性が23.7割、男性は16.6割となっており、このうち女性の約4割、男性の約8割は「どこにも相談しなかった」と回答しています。また「交際相手から一度でも暴力を受けたことがある」と答えた女性は19.1割、男性は10.6割となっており、このうち女性の約4割、男性の約6割は「どこにも相談しなかった」と回答しています。

◆知っていますか？デートDV
DVは大人だけではなく、交際中の若い人たちの間でも起きています。交際相手から振るわれる暴力を「デートDV」といいます。デートDVによる被害も、身体的暴力のほか、相手を思い通りに支配したり束縛したりしようとする態度や行為を含みます。



11月12日～25日は『女性に対する暴力をなくす運動期間』です

DVで悩んでいませんか？ 一人で悩まずに相談しましょう



暴力は、人権を著しく侵害するものであり、決して許される行為ではありません。一人一人の人権が尊重され、誰もが安心して暮らすことのできる社会を築くため、DVについて考えてみましょう。

◆ドメスティック・バイオレンス(DV)とは？

配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった人から受ける暴力を「ドメスティック・バイオレンス(DV)」といいます。暴力には主に次のような形態があります。

- 身体的暴力(殴る、蹴るなど)
- 精神的暴力(大声で怒鳴る、無視するなど)
- 性的暴力(性行為の強要、避妊に協力しないなど)
- 経済的暴力(生活費を渡さない、働くことを禁止するなど)
- 社会的暴力(外出を禁じる、携帯電話の履歴やメールをチェックするなど)

DVの多くは複数の暴力が重なって起こり、何度も繰り返されるといふ特徴があります。

◆なぜDVは起るの？

DV被害は、多くの場合女性が被害者です。その背景には「妻は夫に従うもの」などといった社会的通念や、男女の経済的格差など、個人の問題として片付けられない社

会的な問題が関係しています。DVは親密な関係の中で起こるため、自分が暴力を受けていることに気付かない場合があります。「相手が怒るのは自分が悪いから」「束縛されるのは愛されている証拠」などと思い込んでいることが、問題の深刻化を招くことになるのです。

◆あなたは悪くありません
一人で悩まず相談しましょう

DV被害を受けていても「私も

悪かったから仕方がない」と我慢していませんか。どんな暴力であっても、暴力は振るう方が悪いのです。あなたが悪いのではありません。家庭内の暴力を外部に相談することはとても勇気がいることです。しかし、暴力を受け続けることで、自分自身や子どもが取り返しのつかない心身の傷を負うことになるかもしれません。自分や子どもの将来のために、一人で悩まず、まずは相談してください。

DV相談窓口
専門の研修を受けた相談員が対応します。相談は無料で、秘密は守られます。安心してご相談ください。

- DV相談ナビ(内閣府) ☎0570-0-55210
- ※発信場所から最寄りの相談機関の窓口に電話が自動転送されます
- 花巻市婦人相談窓口(本庁地域福祉課) ☎24-2111 内線507
- 配偶者暴力相談支援センター(県南広域振興局 花巻保健福祉環境センター) ☎22-4921
- 岩手県男女共同参画センター ☎019-606-1762

身近な人からDVについて相談されたら…

- ◎ 相談者の話をありのままに受け止めましょう
話を受け止めるだけでも相談者を力づけることができます。「あなたは悪くない」「暴力を振るわれてもいい人などいない」と声を掛けてください。
- ◎ 相談窓口や専門機関への相談を勧めましょう
- ◎ 危険だと感じたら迷わず警察へ通報しましょう
- ◎ 相談者のプライバシーを守りましょう
相談者の了解なしに他人に話したり、相談内容について加害者に確認したりすることは絶対にやめましょう。そのことが原因で暴力がさらにひどくなる可能性があります。

◆被害者はなぜ逃げられない？

DV被害者は「逃げたら殺されるのでは」という強い恐怖心を持つたり「助けてくれる人などいない」といった無気力状態に陥ったりすることがあります。また「これまで築いてきた人間関係を失いたくない」という思いや「配偶者の収入がないと生活できない」という経済的問題により、逃げることに踏み切れない人もいます。

DVは私たちの身近にも存在しています。どんな理由があろうと、暴力は決して許されるものではないという姿勢を社会全体で示していく必要があります。

早期発見！DVチェック

あなたとパートナーの間で次のようなことが起こっていませんか？
チェックが多くなるほど、DV被害が深刻化する恐れがあります。

配偶者やパートナーは…

- 独占欲が強く、嫉妬心が強い
- あなたが何かをするたびに自分の許可を取らせる
- あなたとすぐに口論し、暴力に発展することがある
- 自分の失敗をあなたのせいにする
- あなたが自分に従うものだと知っている
- あなたを家族や友人から孤立させようとする

あなたは…

- 相手の機嫌を損ね、意見が食い違うことを恐れる
- 相手が怒るのは自分に非があるからだと思っている